

2022年版通商白書目次

第Ⅰ部 地政学的不確実性をもたらす経済リスクと世界経済の動向

第1章

世界経済に対する地政学的不確実性の高まりと経済リスク 3

第1節	ロシアのウクライナ侵略による世界経済への影響.....	4
1.	世界経済と金融市場・商品市況の動揺.....	5
2.	我が国と諸外国のロシアによるウクライナ侵略への対応.....	13
3.	ロシアとウクライナの世界経済とのつながり.....	18
4.	我が国とロシア・ウクライナとの貿易.....	33
5.	我が国のロシアとウクライナ進出企業の動向.....	36
6.	ウクライナ情勢を踏まえた戦略物資・エネルギーサプライチェーンリスクと 安定供給確保に向けた取組.....	37
第2節	世界的な供給制約の高まり.....	38
1.	世界的な物品輸送の目詰まり.....	39
2.	人手不足の深刻化.....	45
3.	資源・エネルギー価格の上昇.....	46
4.	為替動向・交易条件の変化.....	53
5.	半導体・自動車部品の供給制約.....	54
第3節	先進国の金融政策正常化に伴う新興国経済への影響.....	57
1.	新興国の経済財政の健全性と資金フロー・通貨価値への影響.....	57
2.	新興国の金融不安による先進国への影響.....	67
第4節	世界における政府・民間債務の急増.....	76
1.	緩やかな金融環境下で増大する世界の債務.....	76
2.	政府債務の動向.....	81
3.	民間債務の動向.....	85

第2章

世界経済の動向と中長期的な経済成長に向けた取組 95

第1節	コロナ禍からの正常化を見据えた世界経済の動向.....	96
1.	世界経済の動向.....	96
2.	コロナ禍の影響が残る政府債務.....	101
3.	実質的な産業政策手段にもなった企業金融支援.....	102
4.	貿易量の偏在とインフレ圧力.....	104
5.	デジタル化への対応と根強い接触型の経済活動への需要.....	106
6.	所得面以外にも多様化する労働市場の格差.....	112
7.	経済のグリーン化による資源調達の重要.....	117
8.	長期停滞からの脱却を促すビジネスダイナミズムの重要性.....	119

第2節	米国経済の動向	123
1.	経済回復の動向	123
2.	米国経済におけるインフレの実態	131
3.	財政・金融政策	136
第3節	欧州経済の動向	141
1.	アフターコロナの経済動向と足下のウクライナ情勢	141
2.	欧州経済の特徴と課題	146
3.	欧州の成長戦略等	153
第4節	中国経済の動向	159
1.	経済回復の動向	159
2.	経済回復の特徴と課題	165
3.	構造問題	166
4.	経済政策	181
第5節	インド・東南アジア経済の動向	184
1.	経済の動向	184
2.	経済回復の特徴と課題	188

第3章

世界経済の長期的展望 197

第1節	長期の人口動態と経済成長	198
1.	政策の選択にも影響を与え得る人口推計	198
2.	労働力人口と経済成長	202
3.	高齢化とシルバーマーケットの形成	208
4.	高度人材獲得の重要性	210
5.	メガシティの形成	213
第2節	グローバルで加速するトレンド	217
1.	デジタル変革	217
2.	地政学リスクの増大	223
3.	共通価値の重視	228
4.	政府の役割強化・産業政策シフト	237

第Ⅱ部 経済構造・技術・地政学・価値観の変化に対応した 通商の在り方：課題と機会

第1章

共通価値を反映したレジリエントなグローバルバリューチェーン 245

第1節	グローバルバリューチェーンの実態と課題	246
1.	世界の貿易投資構造の変化	246
2.	日本の貿易投資動向	252
3.	中間財貿易と付加価値貿易	257
4.	調達先・生産拠点の変化	263

5. グローバルバリューチェーンのぜい弱性	268
第2節 経済安全保障とサプライチェーンの強靱化	274
1. 中国の台頭と主要国・地域との経済的結びつき	274
2. サプライチェーンにおける特定国への依存の状況	282
3. 機微・新興技術の発展と輸出管理・対内直接投資管理等による経済安全保障の推進	287
4. 貿易・投資・金融面での措置を巡る動向	292
第3節 共通価値の可視化とサステナブルなグローバルバリューチェーンの構築に向けて	294
1. 気候変動への対応	294
2. ビジネスと人権の課題への対応	301
3. 多様化する考慮事項	303
4. デジタルによるグローバルバリューチェーンの可視化	304

第2章

イノベーションによって変化する世界の貿易構造と経済成長の道筋 …309

第1節 テクノロジーと貿易	310
1. デジタル貿易の動向	310
2. 新興技術の貿易への影響	314
3. 新興技術の貿易投資を通じた雇用への影響	319
4. 格差・不平等への影響	325
第2節 アジア大のスタートアップによる新しい経済機会の創出	331
1. スタートアップをめぐる動向	331
2. プラットフォームビジネスの動向	336
3. アジアとの「共創」がもたらす新たな経済機会	342
*コラム1 サプライチェーン・マネジメントにおける非経済的価値の多様化	348
第3節 無形資産と経済成長	350
1. 先端技術産業の市場規模拡大から示唆される無形資産投資の重要性	350
2. プラットフォーム企業の市場支配力の源泉としての無形資産投資	351
3. イノベーションを後押しするための金融市場	352
4. 主要国の無形資産投資の比較	354
5. 知的財産の生産を促進するためのオープン・イノベーション	359

第Ⅲ部 施策編

第1章

ルールベースの国際通商システム …367

第1節 G7/G20/OECD	368
1. G7	368
2. G20	373
3. 経済協力開発機構（OECD）閣僚理事会	375
4. 鉄鋼グローバル・フォーラム閣僚会合（テレビ会議）	376

第2節	WTO 全体の動向	378
1.	WTO 全体の動向	378
2.	新型コロナウイルス感染症の影響を受けた各国の貿易関連措置と WTO の取組	379
3.	WTO 改革の必要性	380
4.	ITA(情報技術協定) 交渉	381
5.	EGA(環境物品協定) 交渉	382
6.	TiSA(サービスの貿易に関する新たな協定) 交渉	383
7.	その他の有志国の枠組による交渉	383
8.	日米欧三極貿易大臣会合	384
9.	WTO 協定(ルール) の実施	385
第3節	APEC を通じた地域経済統合の推進と経済成長の促進	387
1.	APEC	387
第4節	経済連携協定の進展	388
1.	経済連携協定(EPA/FTA) の意義	388
2.	経済連携協定(EPA/FTA) を巡る動向	388
3.	我が国の経済連携協定を巡る取組	389
第5節	投資協定	396
1.	世界の投資協定を巡る状況	396
2.	投資協定の主な規定内容	396
3.	エネルギー憲章条約の主な規定内容	397
4.	我が国の投資協定を巡る最近の状況	397
5.	今後の課題	399
第6節	新たな多国間連携(IPEF、日米豪印、デジタル等)	400
1.	インド太平洋経済枠組み(Indo-Pacific Economic Framework: IPEF)	400
2.	日米豪印会談	400
3.	デジタル通商ルール	401

第2章 各国戦略 403

第1節	米国	404
1.	日米首脳会談・要人往来等	404
2.	米国通商拡大法第232条への対応	406
3.	日米貿易投資関係の更なる発展に向けた取組	407
4.	地域・国際社会の繁栄に資する日米経済協力	407
第2節	欧州	409
1.	EU 関係	409
2.	英国	410
3.	ドイツ	410
4.	フランス	411
5.	EU 域外	411
第3節	中国	412
1.	今後の方針	412
2.	主な進捗	412

第4節	ASEAN・大洋州	414
1.	総論	414
2.	日ASEAN関係	414
3.	ASEAN各国との関係（2022年1月の萩生田経済産業大臣の東南アジア出張は コラムに記載）	415
4.	大洋州各国との関係	416
*コラム2 萩生田経済産業大臣の東南アジア出張について		417
第5節	インド	420
1.	概要	420
2.	日印産業パートナーシップ協定	420
3.	デジタル	420
4.	人材育成	420
5.	SCRI	421
第6節	中南米	422
1.	今後の方針	422
2.	進捗状況	422
第7節	ロシア	424
1.	日露関係	424
第8節	中東	426
1.	今後の方針	426
2.	進捗状況	426
第9節	アフリカ	429
1.	進捗状況	429

コ ラ ム 一 覧

1. サプライチェーン・マネジメントにおける非経済的価値の多様化…………… 348
2. 萩生田経済産業大臣の東南アジア出張について…………… 417